日本G.A.P.ニューズレター No. 4

何盤の訣別"の概要 その3	1
分2部 世界描演旅行	
* / 章 「米国加らニュージーランドへ」	1
才 2章 滚 州」	2
オ3章「ダーウィンから英国へ」	3
オ4章 オランダ女王との会見」	4
オ5章「チェーリッヒ事件」	5
才6章「旅行の終末」	6
才3部	
オノ草 「悪寒すなわち時の人」	7
個人的体験を通じて求道へ	10
ジョドレルバンクの神祕	13
維報	5
	17

『田盤の訣別』の概要 その3アタムマキのオ三番目の著書―

一、口内は領文の飲そのますを引用した文です。書の概要の連載は完了致します。カッコ内の註は久保田によるもの、今回は少訣別。中の才二部及び才三部を紹介しますが、これでこの者

② 『周来記』の家稿をレズリー(デスモンド)かかりつけの出版社に すなわち、宇宙人を霊的なものとみなす思想により、宇宙の整要にたい する科学的研究態度を妨げることとなったのである。アダムスキ宛に世 専中から質問状が殺到するようになったけれども、それでにいする回答 は費用や時間の上から大変な仕事となってきた。そこで宇宙人の指導に より各国の協力者に呼びかけて、アダムスキの代理として彼の回答や情 より各国の協力者に呼びかけて、アダムスキの代理として彼の回答や情 より各国の協力者に呼びかけて、アダムスキの代理として彼の回答や情 なれることとなった。この協力はすばらしく、GAPと呼ばれるこの運 されることとなった。この協力はすばらしく、GAPと呼ばれるこの運

動は急速に拡大していった。

- 一九五八年に藻州のGAP協力タルーフから費用を抵出できず、ついにことをにありましたが、残念ながらこちらで費用を抵出できず、ついにことが、たこれを契機として彼は世界講演を行れてたいきさつがあります)
- 一九五九年一月十三日にロサンジェルス空港を出発。途中ハワイにいって、三の小グループのために講演を行なった。フィージーランドに向い、一月十七日にオークランド、ウェヌアパイ空流に着度。ヘンク・ヒンフェラー夫妻と彼らの団体が主宰してニュージーランドに向い、一月十七日にオークランド、ウェヌアパイ空流に着度。ヘンク・ヒンフェラー夫妻と彼らの団体が主宰してニュージーランドに尚は演し、また政府機関が絶えな支持を寄せた。と。ラジオ、テレビにも出演し、また政府機関が絶えな支持を寄せた。と。ラジオ、テレビにも出演し、また政府機関が絶えな支持を寄せた。かに、一部局、都合により王には含えなかったが、一行は聖殿では大人で、一部局、都合により王には含えなかったが、一行は聖しい一日をすい文。たが、それはまるで一行を護衛しているかのようであった。この、現象は他の概会にもしばしば発生した。
- その後一人のマオリ族婦人がアダムスキに語ったところによると、教名のマオリ族の少年が回避に東せてもらった。アダムスキは講演でこの話をつけ加えた。するとニュージーランド・ヘラルド紙が、アダムスキはマオリの伝説である。耳世界の女人口ナに関する物話を焼直したのだと攻撃したが、これは誤ったところによると、もの後一人のマオリ族婦人がアダムスキに語ったところによると、

ルトンのあいだで三様の円盤が完ぶのを目撃したという噂が流れた。が空中で記録するのを目撃して、この事件は新層に報導された。また自然となび友人のN・ウェスト氏と共に、アダムスキがナピアーに向うが空中で記録するのを目撃して、この事件は新層に報導された。また自然と及び友人のN・ウェスト氏と共に、アダムスキがナピアーに向うが、大人及び友人のN・ウェスト氏と共に、アダムスキがナピアーに向うが、大人及び友人のN・ウェスト氏と共に、アダムスキがナピアーに向うが、大人及び友人のN・ショー氏

○ 二月至日、ニュープリムスで大歓迎を受けたアダムスキは守宙船を自衛を開いたが、タ方前に一牧師とその信者が町の上空を巨大ない、経済金を開いたが、タ方前に一牧師とその信者が町の上空を巨大なり、二ュープリムスで大歓迎を受けたアダムスキは市のホー

助してくれた。
動してくれた。
がはてニュージーランド南島のグライストチャーチへ渡り、各地で

うに述べていますとう。このでは、この章の終りで彼は次のように述べていますといったとの世界旅行では、このニュージーランドが最も一つ話。総ぜてアダムスギの世界旅行では、このニュージーランドが最も

かである」
「ニージーランドにおける私の議演後行の成果はすばらしく、各方面の協力はたけしたものであった。ご言孟ナカのニュージーランドを選むし苦くて新しい住み場所を選ぶとなれば、私はニュージーランド国民はの協力はたけしたものであった。ご言孟ナカのニュージーランド国民はのおかった。と思う、この国には多くの好換会があり、住民は友好的で親の協力はあり、と思う、この国には多くの好換会があり、住民は友好的で親しているようである。私がある。

"为二章 豪州四

フルがむることを述べています。それについてアダムスキは草の始めに(註。続いて濱州へ行きますが、こってはかなり攻撃されて多くのトラ

次のように云っています)

「深州の各新聞社は私がニューシーランドで起した友響に鑑いたので、大松の新聞社は私の講演を好象をもって歌楽していた。加うるに円盤、宇宙人向騒に関する限り、神秘主義と霊界庫信との虚匿性を私はくり込む事を抹殺しようとする暗獣のグループ)にたいする主な挑戦となった。である。彼らグループは濠州における私の講演を中止させようとしてのである。彼らグループは濠州における私の講演を中止させようとしているらしかった」

かアダムスキの声明をゆがめて密表し、なかには彼が食星と火星に行っかアダムスキの声明をゆがめて密表し、なかには彼が食星と火星に行ったとれているというデタラメな記事を書りたのもあった。

② シドニーのUFOグループは薬酪を用りてアダムスキを失墜在しめようとした。すなれち、濃州へ入国した外国人は如何なる仕事を行なう場合も政府の許可証を必要とするのであるが、グループはその必要のない旨を主張して、アダムスキを政府との約等に巻込もうとした。アダムスキは不活満減を行なうことを拒否して、事態は陰悪になったが、フリに許可証を得てシドニーで講演を行ねり、市民からける飲迎を受けた。レかし検閲局は意地悪くアダムスキを追求した。

のなかの婦人連が上空を数様の円盤が築がまるのを国撃した。

この数週旬、多様な色を帯びた回盤群がパーノングの上空を雅んんでり、とせ。これは三月二十八日付の、サンデー・メイル紙ヶに発表された。 上た。これは三月二十八日付の、サンデー・メイル紙ヶに発表された。 アダムスキがアデレイドを出発する前に、宇宙機の着度事件が発生

 ○ ナルボルンではUFOグループ及び各新闻社から非常な歓迎を受け が公スキは述べている。

 からないできた。「ここでも他と同様に数音人の表含者が は浸含を終えることができた。「ここでも他と同様に数音人の表含者が にあることができた。ないでプリスペーンでも大成功裏に だ。ラジオ放送も上首尾であった。次いでプリスペーンでも大成功裏に だるであった。次いでプリスペーンでも大成功裏に が公スキは述べている。

① ブリスペーンに滞在中、アダムスキはたまたすり連の空視科学映画 田(など)の8 & Traci は ま。 57本・5(星々への道しるべ)を見たが、この映画のなかの二、三の場面はアダムスキがかつて実際のたら(註。これはきわめて映画のなかの二、三の場面はアダムスキがかつて実際のった。(註。これはきわめて映画の音であった。またその場面にはアダムスキがとれるで、たぶんソ連にも宇宙船に寒ったことのあるコンタクトマンがいるので、たぶんソ連にも宇宙船に寒ったことのあるコンタクトマンがいるのではけいかと云っています。そしてソ連がこのような実際的な宇宙物映画を作り続けるとすれば、お化けばかり出て来る宇宙物映画しか作らない米国は、この方面ではるかに立遷れるだろうと警告を溶しています。ところで、右の映画の題をはもちろん英訳ですが、これが日本に輸入されたものが、輸入されたとすればどのような題名で公開されたか私は(久保田は)知りませんので、も以わじ当りの方がおられましたら、全急にお知らせ下さいるせんか)

ムダム空港でインドのGAP協力者の・K・マイトラ博士とそのグルーで、途中、シンガポール、バンコックを経てカルカッタに着陸した。ダー九五九年四月十六日の夕方に、アダムスキはダーウィンを出発して、イーウィンから、北央、田へ。

プに迎えられた。「そして地上に降り立つと花環が私の首にかけられた。 では感じたのである」ここでは時間の余裕がなかったために講演を行る 私は感じたのである」ここでは時間の余裕がなかったために講演を行る 私は感じたのである」ここでは時間の余裕がなかったために講演を行る 心は感じたのである」ここでは時間の余裕がなかったために講演を行る といれた。「そして地上に降り立つと花環が私の首にかけられた。 ではれた。

 ○ 次にカラケ空港へ着いたとき、空港の保員がアダムスキに置くべき を受けているという。また、過去十三年間に一、二度パギスタンの政府 を受けているという。また、過去十三年間に一、二度パギスタンの政府 高官と宗教上の指導者たちが完けてと食事を失じしたこともあるとつけ加えた。各国政府にも同様の当件が発生しているのだけれども、指導者加えた。各国政府にも同様の当件が発生しているのだけれども、指導者加えた。各国政府に可相をひたがくしにしているので、各国民は何知知らずに政府を信じているのである。

② カイロ、アテズ、ローマを経て、一九五九年四月十八日にロンドンへ到着した。ここではアダムスキの芸着者デスモンド・レズリーと、ジョン・M・レイド氏(註。現在、フライイング・ソーサー・レヴューの競補集額向)が万端の世話を焼けた。英国で最も人気があり、九百万の聴視者のあるBBCのテレビ番組ッパノラマルで、アダムスキは英国の有名は天文学者パトリック・ムーアと討論形式で出演した。しかしこの相果はムーアの完全な敗北に終り、新聞はアダムスキの勝ちを宜して、一般の衣がされめて大きかったために、ムーアは二ヵ月の休暇を与え、かれて、その間ムーアの投入深となっていたテレビ出演を楽じられた。アダムスキは彼を気の毒に思った。しかし、ムーアも月世界の。オニーアダムスキは彼を気の毒に思った。しかし、ムーアも月世界の。オニーアダムスキは彼を気の毒に思った。しかし、ムーアも月世界の。オニー

べる意はながったのである。いる意はないではアダムスキに友対せあった。ただで文学者としての立場から表面上一心アダムスキに友対せらいないの存在を認める一人であるので、内心ではアダムスキに友好的で

等の形で南かれて連哥に終了した。
の四月三十一日少曜日にタンプリッジ・ウェルズでの講演会は変量での四月三十一日少曜日にタンプリッジ・ウェルズでの講演会は変量

○ 一旦コンドンに帰り、四月三十五日にウェストン・スーパー・メア、 ・ 口部表に行くためデスモンド・レズリーと停速場へ行き、予約してあ ・ と列達のコンパートへ入ると、すでに先客が一人座っていた。汽車が ・ と列達のコンパートへ入ると、すでに先客が一人座っていた。汽車が ・ と可達のコンパートへ入ると、すでに先客が一人座っていた。汽車が ・ と列達のコンパートへ入ると、すでに先客が一人座っていた。汽車が ・ と可達のコンパートへ入ると、すでに先客が一人座っていた。汽車が ・ と可達の一科学者として働いている人であった。轉漢をほど成功だった。 ・ ロンドンに帰ってから四月三十八日にキャクストン・ホールで舗漠 を回標。ニーカ日にドバーミンガム大学で講演会を開いたが、ここで の評価によべて没使困の手で行われた。続いてマンケッスターのフッ でワース ルールで構造、これも大成功であった。轉漢をほど成功だっ と同様のて地外をいってしまったをめ、残りの請漢は中心とれた。 はは、続めて地外をいってしまったをめ、残りの請漢は中心とれた。 はは、続めて地外をいってしまったをめ、残りの請漢は中心とれた。

べている会見の根状のがいてする。以下はアダムスキが自ら述むいっのに私は書き行った記憶があります。以下はアダムスキが自ら述むシャーアリズムのあいだで多くのひどいデマが落ばされて、事の意祖やシャーアリズムのあいだで多くのひどいデマが落ばされて、事の意祖

イ・ダクトラかせで、アダムスキがまだプリスペーンに滞在中にその旨

社もあった。ロンドンにいるあいだ、各国の新聞はこのことでデタを連絡してきた。ロンドンにいるあいだ、各国の新聞はこのことでデタ

五月十六日、アダムスキはテレビ番組に出演の後、ハーグへ真及中に到着した。十七日は一日体養。十八日の朝、宮廷ニレまわしの重で出に到着した。十七日は一日体養。十八日の朝、宮廷ニレまわしの重で出たが、午前十一時に宮殿へ到着して文庫へ家内され、コニで女王、皇太子及が他の出席着すなわち、オランダが空場会な長し、コルフ氏、オランダ空軍禁護長川・シャパー中将、航空医学の専行家、ユトレヒト大学のヨングブレド表域、アムステルダム大学のローイ教授らと共に会談した。雰囲気は友敬的で、しかも皆がアダム大学のローイ教授らと共に会談した。雰囲気は友敬的で、しかも皆がアダム大キの体験談に非常な興味を示したが、アダムスキはただ」言い女主から先に話し出すのが、女王の名誉だが、アダムスキはただ」言い女主から先に話し出すのが、女王の名誉だが、アダムスキはただ」言い女主から先に話し出すのが、女王の名誉だが、アダムスキはただ」言い女主から先に話し出すのが、女王の名誉だいてすらでくり返すだけで、会談の内容には触れながった。記者のかいは遺縁が後のであるだけで、会談の内容には触れながった。記者のかには遺縁が後付きの完全な場では痛してある。とにかくユかには遺縁が後のできるとに満ちた偉大な婦人である。
 リアナ女王は御徳と愛とに満ちた偉大な婦人である。

○ ホテルへ帰ってラジオ放送により、ソ連が月の地表の性質について とれが火山灰ではくて地球によく似と拷問品の層がら成っていることや、 とれが火山灰ではくて地球によく似と拷問品の層がら成っていることや、 とれが火山灰ではくて地球によく似と拷問品の層がら成っていることや、 とがかったが、後につ訣別~の豪稿を書いているあいだにどうもロケッ いなかったが、後につ訣別~の豪稿を書いているあいだにどうもロケッ いなかったが、後につ誤別~の豪稿を書いているあいだにどうもロケッ いなかったが、後につ誤別~の豪稿を書いているあいだにどうもロケッ

○ 五月ご十二日、金曜日にアムステルダムの市立劇場におけるイタリ

ア映画が死は大気圏外からまる。の試写会に出席した。この映画の勧は、ア映画が死は大気圏外からまる。の試写会に出席した。この映画の勧は、かくてもともとその窓屋を作り出したのと同じ武器によってつけに破壊されるのである。この映画のあとで、新闻社の代表連からこのようは壊されるのである。世球の気水爆によって空間に吹き籠ばされた石屑が集次の通りである。世球の気水爆によって空間に吹き籠ばされた石屑が集かってを流れるのである。一の映画のあとで、新闻社の代表連からこのようは表示に受えている。一つ映画の勧は、と答え、次のように説明した。

「福孁は自然の放電のすざまじり熱によって融合する目に見えない物質の微粒等から発生する。地球の大気の上層に吹き上げられた数百万トンの石屑が集まって人工的な小窓屋になるのは全く可能なことだ。その石屑が集まって人工的な小窓屋になるのは全く可能なことだ。その石屑が集まって人工的な小窓屋になるのは全く可能なことだ。その石屑が集まって人工的な小窓屋になるのは全く可能なことだ。その石内の質量が大になればなるほど、付着する微粒子群にたいして大きな吸入力がには硬石と周遠えられるものもある。

演会の妨害事件についてかなり詳しく記されてあります)(主。アダムスキが世界旅行中に最大の歌客を受けたチューリッとの講習が一五音年、チューリッと、事が代し

○ 五月二十三日、アダムスキは汽車でオランダからスイスのパーゼルへ到着した。ここではズイスのGAD主宰者ルウ・ツィンシュターク女快がすべての面倒を見た。五月二十六日にチューリッヒで完ず外一回目中がすべての面倒を見た。五月二十六日にチューリッヒで完ず外一回目中がすべての面倒を見た。五月二十六日にチューリッヒで完ず外一回目中がすべての面側を見た。五月二十六日にチューリッヒのがすべてのがしていたがよった。

ツ上磐楽だと書きたてた。 の大新陶は完全にデクラメな記事を掲げて、最も活躍したのはデューリ た主談者が別にいることがわかった。またこの事件について翌日マイス した。後になって、大乱刷を演じたこの連邦工科大学の学生群を扇動し 整官が場内灯をつけさせたために映写は中止され、会は終りとなった。 持っているのに、これは妙な事であった。講演会の朝、ドイツの週刊二 警察著長がアダムスキの実写フィルムの個人検閲を要求した。許可証を き、学生の一人がつりて来て謝罪し、窮動者が別にいることをほのめか 行したときに投げられたビール概が漢壇にいた一婦人の有にあたった。 めがけてサーチライトを照射して映写の妨害をした。映写が半分まて進 を用いて騒ぎ、放歌し、歓声をあけて野次り、ついに花火やカンシャク のもとに次才に学生たちが会場で騒ぎだして、ついに大混乱におちいっ このとき警察がら私股の警官隊が会場へ入った。七のの人の聴象にまじ 説は後に会談の内容をほぼ正確に掲載して大いなる勇気と自主性を示し 王を爆発させて混乱は極に違した。映画が始まると今度はスクリーンを の警官隊は知らぬ顔をしていた。学生群は子供のラッパやその他の道具 た。学生が聴家と乱剧を始めたために警察官の活動を要請したが、場内 アダムスキが会場の裏口から迷げ出して或るカフェーへたどり着いたと って三のの人の学生が入り込んでいた。始めはよかったが、巧妙な作動 た。五月二十九日に向題の沖三回目の請漢をチューリッとで行なった。 ユーズ惑ッデア・シュピーゲルの記者三石とインタウューレたが、同

す) 各国のイロ協力者は続々とバーゼルへやって来た。ドイツロドの以上で失敗したために、難を恐れて中止したという説は誤まりのようで国の讃演会は中止された。〈註。当時伝えられたようは、彼がチューリーの後アダムスキは健康を害して肺炎となったためにヨーロッパ各

研究会を長カール・ファイト夫妻、オーストリアのドラ・バウエル女史 ミューニッヒのゲオルゲ・ナイトハルト、イダリアのアルベルト・ペレ 丁博士らざある。アダムスキはロカルノで休養することになった。

② 世界の金融の中心地チューリッとはサイレンス・グループの国際的 根拠地であると、金というものの影響力を及ばす自に見えない手綱が否 各国の政府筋を踊らせている。 国の団体をあやつるためにチューリッヒから伸びている。スイス銀行は

よって、大衆が知識をたかめて向上するのを抑制するのである。要する 指令にしたがって容国代表が五に駒として時員をさせられている巨大な 界に混乱を起すことにより、自接的にサイレンス・グループを助けてい にスイズという国は中立の美名のもとにサイレンス・グループの果食う ら隠れている世界政府の如きものがあり、金権の大君主たちは金のカに る。ゆえにスイスでは戦争を起してはならないのだろし、社会の表面が チェス盤である。このゲームはすべて中立というマントの下で行なわれ ◎「ジュネーウという所はスイス人が、大財网と呼んでいる者たちの 国なのである。また世界の心霊主義や神秘主義のグループがUFの研究 あのである。

「才大章 旅行の終末」

◎ 一九五九年六月十二日にルウ・ツィンシュタークに付添われてアダ は行路をぶらついて、大通りへ出たときは真夜中であった。タクシーを がレストランティラ・キステルナで開かれた。パーティーのあとで一同 されていたので、アダムスキは一行と共に市内の見学ときわめて楽しい アルベルト・ペレゴ博士とそのグループに迎えられたが、講演会は中止 ムスキはイタリアのローマへ出発した。空港でイタリアのGAP主宰者 二日間をすびした。十四日に小人数のささわかなディナー・パーティー

> であることを云い当て、深夜から朝方まで市内をドライヴしてくれた上 その料金をとろうとしなかった。この増くべき親切な不思議な運転手の 正体につりてはその後も謎のままである。 タクシーの味ることを感知してその場でや言した。するときもなく突如 拾おうにも一台も見当らなり。このときアダムスキはテレパシーにより 一台の車が近づいて一同を乗せてくれた。運転手はアダムスキが米国人

◎ ローマではアダムスキの講演会は行なわれなかったが、ペレゴ博士 真相にたいして如何に盲目にさせられているかを充分に知ることができ 数多くの廃れた政界の楽屋話をしてくれたが、これによって結局大家が ヤーナリストで各国の政界の裏面に精通していた。そしてアダムスキに た。またローマの他の一人の協力者フランセスコ・ポリナーニ博士はジ の講演会が開かれてアダムスキも出席し、聴家から熱型な大歓迎を受け た。短時日ながらイタリアは忘れかたい印象を与えた。

世界講演旅行は終った。しかレサイレンス・グループはならも妨害を続 サンディエゴに向かり、米国のハロマーへ帰って波瀬に満ちた大カ月の ○ 大月十七日にデンマーク行の花行機でローマを出死。コペンハーゲ けるかもしれない。(註:最後に次のように結んでいます) ンで乗り換えて、ケリーンランドとカナダのウィニペッグで燃料補給。

はだいが状況が変っています にある最も強力な武器は、一般大衆の無関心してあるということだり ス・グループの道具として役立っているのである! 人は、利己主義者側に最も容易に迷わされてあり、はからすもサイレン 「一つだけ確かな事がある。すなわちサイレンス・グループの手のなか 一の地球の周囲の遊室群に友好的な人類が存在する事実に関心をもため 註。以上でアダムスキの世界講演旅行に関する部分は終ります。現在

最大の生老と云えるでしょう。すねわち彼の宇宙哲学を最も満的に表現 カリ版であることなどからして、東マの道力をここでは到抵信え得ない るにふさわしい章です。これは体験記ではなくて、或る依空の人物五名 せん。また非常に淡然なのは、私の翻訳力と文章が食弱なため、とれに と、この意だけは一九三七年に小冊子として出したもので、現代の情勢 知らは男はどうも宇宙人を表わしているようです。着者の註によります 各層を付表する人物で、要するに理解力なき地球人の象徴であって、見 と一人の不思議、海知らぬ男との対話形式になっており、五名は社会の したもので、その見事な文章とあいまって、まさに、説別の最後を飾 ということですり ひとも全訳でもって紹介したいのですが、新面の都合で概要しか書けま に合わせるにめ苦子書きかえた個所があるということです。これこそせ (註。この意は実に素晴らしく、アダムスキのこれまでの記述のなかで

告によりルシファーはつけに天空から落下して地球の四人となる。しか 肉体の心の象徴です)とが広漠たる宇宙空間で問答を行ねうが、神の官 の幼な児たちに教えるであろう。」 こでわれは人間を支配して、権力と宇漢天とを身につける方法を汝のこ 「地上の人間の忠誠を期待する、おお、思か者の神、思かしい神よ。こ レルシファは、のくまでも宇宙の神を嘲笑して次のような医言を放つ。 先ず最初に、宇宙の神と意魔ルシファーへ註。ルシファーとは人間の

> していない或る力によって来くされている哀れ奴隷と化した人間たちー すると突然、横れみを湛えた声が聞こえてきた。一知りもしなり理解も る。夜は更けて一周の会話は歌絶え、しばし翻髪が室内に満ちていた。 大冥葉家、若り陸軍将校、有名な光牧师、一科学者、工場の簿記像であ を述がれ、憩りを求めてやって来た五名の人々が座ってりた。すだわち 一九大の年の看すだ浅き境、或る有名な山の茶屋の休憩室に、俗世間

古臭い神話に出て来ら思慮の姿をしたような者のことを云っているのだ と思う。男はそれを否定して次のように話す のだ」と静かに説き始める。悪感と聞いて皆はこの男が牧师か何かで、 化させて支配している酒は、要魔なのですっちてん。要魔こを時の人な っていた。奴隷という言葉に皆が聞き返すと、彼は、現代の人間を奴隷 なりて一同が振り向くと、一人の見知らぬ男がいつのまにか室内に入

どは、人間のなができわめて大きくなっていますので、人質はその天賦 ようになったのです。力にたりする欲望、個人的満足、および宇宙天体 を一人物として容易に口にし得るほどに、人類によって広く表現される の生得機を構成するあの宇宙的な特性を実際には見失っています。人類 いうものは実際には皆悪感の使徒なのだと答えて、これまでに教えられ 的な力に打ち勝つのだと及就するけれども、見知らぬ男は、牧师などと は悪魔の監督の数の下におがき、あぶら汗を流し、呪っているのです」 た力です。悪魔として現われている利己王義と質欲のかは、人間かそれ な力、無数の人自の心を通じて発現するうちに擬人化されるようになっ 「私が云うのは一つのカーー今日の一般人の心を支配している攻撃的 先す老牧师が口を開いて、背後に神をもった社会の宗教的要素が悪魔

てきこ家教は、想念の自由への正してにたいする物圧の象徴なのだと説

が個人的ないまさにしたかって人間の行為を著と悪とに分けながら、宇宙 でしょうか。人間の知能に完全が兄弟愛の感覚を吹き込むことができま めて、人々付五官を表しむようになり、食敬と分裂とにあがくようにな 極三ととが、いつの間にか思慮が、すなわち自我を知る心が芽生え始 ることのできた住民は無我の境で五に奉仕し合って、科学の発展もその 始める。このレムリアは太古に地上の楽園として栄え、テレパシーで語 らつことはできますが、レガレ人間の道徳的、心理的な向とを導く人々 すか。できはしない! それは各個人の仕事です―― 誰も自分以外 代の人間は心理的に幼児であり、知能的には巨人です。この二つがうま の人間のは気を変えることはできないのだ。それをやる方法を教えても 恐怖、利己主義、嫉妬、義望、貪欲、僧察などを取り除くことができる 生き物に慰を吹き込ませることもできるかもしれない。その生き物から めに羽ぐてさえも自分だちの神を一時的な力としている人類を扱うこと るが、少数の真実の科型者の発見物を恵用しようとしている人が多いた く調和していません・一人間は生命と死の秘密を知るかもしれないし、 の働きを支配するためにそれを質明に応用することとは別向題です。現 を求めているすが知意を求めてはいません。知性的であることと、知能 の深刻を登用しているというのに、一体どうしてそれがわれるでしょう はてきないと見知らぬ男は語って、次のように云う。「――人類は知識 次して男は、かつてこの地球に存在したレムリア大陸につけて説明を 続いて科学者が白を出して、科学二七人類を救うものだと歌論を述べ

男の説明に続いて、一局の意識のなかに古代のレムリアの光量が浮が

あがって味んが、それはすでに来路をます姿であった。年月が成光の如ちがって味んのできない或う場面でハタと停止した。誠実にして謎をかったり、大津波が大の場所が一群のレムリア人の前で診弁をあるっていた。「目を開け、一大精霊の子だちよ!―― 汝らが自分自身とこの土地とを完全に被がさせる前に、この破壊的な分離の力を対らの心から取り除け、この七方日のあいだ大地は裏動してきた。物質は勝利を得ようとしている。物質を対らに幾かせぬように注意せより、しかし適落しきったレムリウ人をもけてこの大陸のすべては悪に帰した。ここで意思は、宇宙意識、の発生してこの大陸のすべては悪に帰した。ここで意思は、宇宙意識、の発生してこの大陸のすべては悪に帰した。ここで意思は、宇宙意識、の発生してこの大陸のすべては悪に帰した。ここで意思は、宇宙意識、の発生してこの大陸のすべては悪に帰した。ここで意思は、宇宙意識、の心に持ちてしている。地に向って勝関の声をあげるが、神はただ静かに気う。「私は待とう」とこで悲劇に、おけられて大地に激変が起り、大津波がなが、神に向って勝関の声をあげるが、神はただ静かに気う。「私は待とう。 心は行とう」とこでまをは関にすって片っぱしから利え主義、食みなどのでは待とう」といるのもとのであると、一つでは、大津波があるととのであると、一つでは、大津波があるとしている。物質を対した。

イスも消滅した――自然の手によって排除されたのであった。 サーランティスなる高度に進化した大陸があった。ここもかつてに、アトランティスなる高度に進化した大陸があった。ここもかつてに、アトランティスなる高度に進化した大陸があった。ここもかつてに、アトランティスなる高度に進化した大陸があった。ここもかつてに、アトランティスなる高度に進化した大陸があった。ここもかつてに、アトランティスなる高度に進化した大陸があった。ここもかつてに、アトランティスなる高度に進化した大陸があった。ここもかつてに、アトランティスなる高度に進化した大陸があった。

そのとおりにせよし」

「だが人名の再だいンボで国は置いていて、心は石のようになっていた。古代ローマの学光は歴史の一重にすぎないのです」と思は話してから、古代ローマの学光は歴史の一重にすぎないのです」と思は話してから、古代ローマの学光は歴史の一重にすぎないのです」と思は話してから、古代ローマの学光は歴史の一重にすぎないのです」と思は話してから、古代ローマの学光は歴史の一重にすぎないのです」と思は話してから、古代ローマの学光は歴史の一重にすぎないのです」と思は話してから、古代ローマの学光は歴史の一重に対していて、心は石のようになっていた。

してもいい、それを皆さんはうまくやりました。あなた方名人の考えはちょうど過ぎの文明がやってきたように、極端に個人的な表現形式になってしまった。宇宙の済則に友するだのうから、私は如何なる分野でもなかに因べき増えているようなあの親切の感情を皆さんは大きっと過ぎの文明がやってきたように、極端に個人的な表現形式になってしまった。宇宙の済則に友するだのうから、私は如何なる分野でもなかに因べき増えているようなあの親切の感情を皆さんは表現しているということです。私の意味するところは、あなた方が必んからしてもらいたいとです。私の意味するところは、あなた方が他人からしてもらいたりにとです。それで、もしかりにおがあなた方からあなた方の神をということです。それで、もしかりにおがあなた方がもあなた方の神をということです。それで、もしかりに方人にとって等しい非個人的なり造者がを与えたい。――善善寒、正邪のいずれをも知らぬ割造的な力、道治者がき与えたい。――善善寒、正邪のいずれをも知らぬ割造的な力、道治者がなとすれば、私はそのかわりに方人にとって等しい非個人的なり、適当者がなられば、私はものかりにあるに表現の過ぎる表現

せず依頼もしない動・反動の気理を――」

子には軽蔑しきったような嘲弄の響きかごもっていた。との声の調力者って行くあの浮世の人々から笑意が浮き返ってきた。その声の調があ前で見知らぬ男はただ一人で座っていた。「哀れ、奴隷と化した人がの前で見知らぬ男はただ一人で座っていた。「哀れ、奴隷と化した人があが、前には軽蔑しきったような嘲弄の響きかごもっていた。「哀れ、奴隷と化した人

おり、しかもののはかで、それはあらゆる菩婆の記録できた。その深い静寂のおり、しかも一つの想念の知象を与えるようにも思われた。―― 古りあり、しかも一つの想念の知象を与えるようにも思われた。―― 古りが用とのもののはかで、それはあらゆる菩婆の思視さをかき消すようであり、しかもののはかで、それはあらゆる菩婆が満ちてきた。その深い静寂の

7十二章 結語。

くき。少穀別中の最後の章としてここでアダムスキは衝突な言葉で次の

たこの探求の分野における私の立場を明らかにしたと心から思うものでればこの書が円盤、宇宙人向悪に関する読者の疑問の多くに答え、す

が私と仲間とによって逆行されることを意味するのである。宇宙の兄弟の人、このことはその問題を放棄したことを意味するものでははく、技を飛ぶ円盤の到来とともに始まった私の予備研究は一応終った。もち

(註。以上で、訣別の紹介は終ります) の進化にとって絶対に必要な三つの分野――宇宙哲学と科学――で進むようにと忠告を受けている―― 後略」

個人的体験を通じて求道へ

げることに致します。 で、重要な資料として全訳を次に掲げることに致しますので、重要な資料として全訳を次に掲げられり依頼にたいする国塔で、これで彼女の気持が大体明らかにすれていると、で、これで彼女の気持が大体明らかにはでいてが、これはでは、ことに付いていましたが、これは、一門七月付いルーシーより欠方派りに表信がまましたが、これは

*

には立たには子供さんが写ってにより長い体験と成熟とを待ったのです。 まなたが年受き記しているのを嬉しく思いました。私には三十八才になる息子があり、他の息子は三十大才です。今私はあみたについて思いを あっているが、後の息子は三十大才です。今私はあみたについて思いを もでらし、格っは当たちの一人のようにあなたを愛することができます。 まずになる域と腹違いの同年の思子があり、弟阋子のほうには十 七才になる域と腹違いの同年の思子があり、弟阋子のほうには十 と対にしなるはされがら方ですか。あなた自身やや家族についてもっ と訴じく知らせて下さいませんか。

考えられています。私も多くの言語を知るのは賢明だと思いますが、何は別として、多くの理由から、英語は学ぶのに最も困難な言語の一つとあれたが英語を困難に思うことはよくわかります。東洋の多くの言語

りずれば、国家尚に卓和五確立するのにもっとより機会があると思りまスターレませんでした。しかし私たちが五の言語を話したり理解できたスターレません。スペイン語を少し勉強したことがありますが、マ

ないのです。私は精神感が者でもだければ信物治療家でもなく、そないせん。むしろ何ろの努力、愛い該気ご、信念などで放発されるにちかい うとしているのです。それは他人を松葉枚として頼ることで達成できま 体験を通じてもっと知恵を得る必要があるのです。そのことを私けやろ ことはできませんし、また私は導所たる資格もありません。私は個人的 すり彼らは理解していないだけのことです。長りあいだアダムスキの ためにやってきたように、松はもつこれ以上他人のための代か者になる 女を日みり網がら除外せよと主張した協力着が少数りたことを意味しま かしかはその人なを非難していすせん。一話。ルーシーを非難して、彼 力者のなかの或るこ、この人たち)が私に不した態度に響きました。し なたから去ったとき、あけたはきひしい試みに会いましたが、しかし信 ことでするあなたの友人たちがアダムスキにたけする不信のために、あ ムズキを離れたことで、これまで親しみを感じていた人々(註。各国協 頼し得る新たね友だちがあなををとり囲んで支持しています。私がアダ は誰にも全窓わからないことですな。しかしときどき覗き込むのはよい 自身の内部を現ま込ませようとして自分の生活へ次に何がやってまるか 公百している物事に如何に一生懸命に従っているがを帰るために、自分 になりました。それは多くの気で後立つことになると思います。それが 情をどうも神経つ。この過ぎ去ったことは私にとって多くの教験の一つ 人生の目的ではおけでしょうか。自分はこんなことを信じているのだと あおたの私にたいする態度は非常に親切でえ、いつまでも変っない友

うすることによって彼は(註。アダムスキは)古り束縛された諸理論の 私も外国語を用いて活動できたらたと思います。ですから手紙を書きた にとっても、英語が如何と難かしいものであるかという一つの証拠にも すいすした。このことは、英語で育てられた、外国語を知らない私たち すまの訳文が載せてありますが、ルーシーの察文がいか help となっ だめに役立ち(to help)云々」とあるのは、「諸理論を打破しくち 分残念に思っています。あなたが引用した私の文章の中四行目に、「そ ことを意味する)私は自分がひどい誤あをおかしたことに気づいて、随 が、「註。ルーシーからの手紙の一部をコピーして名国場力者へ送った 立託のし方について私が知る限りのベズトを尽くそうとするだけです。 をしようとはしません。真実の生き方と私たちに与えられてきた知識の ていまるが、これはほんとうに有難いと思います。私は区別というもの ありたはアダムスキと私の両方のために出自分の心のなかに余裕を残し 通じて知恵を得たときに私は指導者としての資格を得ることになります。 っと高い深東からまる印象に気つくために……。 れが個人的な体験を の内奥の確信を私は持つ必要があるのですん・・・・推論するどよりもも の自我を一をうよく知るための実行と深い欲求からのみまるところのあ 松は他人の言を聞くことはできますので、そうしています。しかし人間 の内部に私が求めるそのにたりする解答の多くがあるとも思りません。 は長い複雑な文章でしたね。さっとあなたも変だと思われたことでしょ brea大)」とすべきでした。(主·本該市一号の日東にこの誤りの なります。あなたはきわめて優秀です。(註。恥ずかしいことでしてー) つるその手紙を読み返したとき、私も自分の構文法を正すのに困ってし ていたため、おかしいなと思いながらも写句とおりに訳しました)あれ 昨年八月あみたに差上けた私の手紙をあなたは再プリントしています

を受けとるのはとても楽しいのです。

気象の謎を解く方法を知りさえしたら、発生すべず事極や場所などにつ "同葉記"のなかで、金星では地球上で起った出来事について七千八百 いて、それが何らかのしるしきますかもしれません。と同時に、私は知 れについての知識をもたらするのはたぶん学宙人でしょう。なぜなら を生きています。三月になればこので合くが松たちの遊屋にとって如何 識を求めながら、心の生活を満たしている多の祝福に感謝しながら月を と思いるす。また私は世界中の気寒状態に特別な興味をもっています。 りませんので、期待すべき事柄についての彼らの老明は臆測以外の何物 て次中に興味をひき起しています。私は料學者、天文学者、占屋家など 何かとてつもない事が全盗屋に影響を与えるにちかいないからです。こ 遊星全部が如何なる影響を蒙るかを知ることも面白いてしょう。きっと なる影響を及ぼしたかがよくわかるでしょう。またこの太陽系内の他の でもありるせん。何か発生するかをただ為って見るより他に仕方が行り の報告を聞いていますが、二万五千年にさかのぼって歴史的な記録があ ませんか。これは学校における学習はかりてなく人生を通じて云えるこ とを考えてこらんなさい。人間は体験を通じて教課について努力し、そ よとしているかについて決らされたとすれば、その結果大恐慌が起るこ 地球人に求りそうとしてはいないように思われます。これは質明なこと 万年にわたる記録をもっていると述べてあるからです。しかし宇宙人は とです。人間にとって知っておくほうが愛明だと云えるような事柄は れについて知るようになるまでは、その教憩を理解できないのではあり だと私は思ります。個人にせよ国家にせよ、未来が私たち人間に何をレ 你存知でしょうが、ま自発生する遊星の少合りは、時か近でくにつれ

であかよりを進いように思われます。それは窓耐力を必要としますが、たけ如何ですか。私はその問題で努力していますが、進歩はカタッムりたけ如何ですか。私はその問題で努力していますが、進歩はカタッムりたけ如何ですか。私はその問題で努力していますが、進歩はカタッムりたけか同ですか。私はその問題で努力していますが、進歩はカタッムりたけからを進せる。私はそいあいだにとれるがよりを選ばしように思われます。それな窓耐力を必要としますが、とれる私も登録させようとしているわけです。

今二ちらの南ケアリフォーニアは素適な暖い気候ですが、しかしときおり夜中には海岸や奥地の谷南に繋がたちこめます。こちらではとてもあり夜中には海岸や奥地の谷南に繋がたちこめます。こちらではとても水などの客を家っています。報導によりますと、ヨーロッパと英国諸島水などの客を家っています。報導によりますと、ヨーロッパと英国諸島水などの客を家っています。それでとも自いていますが、しかしまれ、客人工的なものです。と同時に、人自が至に相手にたいする現在の態度を交えなければ、戦等も危険な状態になるかもしれずぜん。しかし気状とのおさの地区で戦等が起っていることを聞いていますが、しかしとまるなければ、戦等も危険な状態になるかもしれずぜん。しかし気状とのはでは、戦等を持ちらの時ケアリフォーニアは素適な暖い気候ですが、しかしとまたいっぱりなどの南ケアリフォーニアは素適な暖い気候ですが、しかし気まれていてはいませんか。

一月七日

ルーシー・マクギニス

常に饅頭な人であるために、そうした要才にありがちな残り独立悪誠に彼女個人の意志によるものであろうと思われます。つまりルーシーが非以上の文面からして、ルーシーがアダムスキのもとを離れたのは全く

まって、個人的体験を通じての自己探求を表したのではなりかという臆 がありませんが、人間のこの自動的な不可思議な終求こそ问題とされる がありませんが、人間のこの自動的な不可思議な終求こそ问題とされる の心に芽生えた。未知なるものへの憧憬がどうさせたが、しかし事態がこ の心に芽生えた。未知なるものへの憧憬がどうさせたが、しかし事態が の心に芽生えた。未知なるものへの憧憬がどうさせたが、しかし事態が の心に芽生えた。未知なるものへの憧憬がどうさせたとしか云によう がありませんが、人間のこの自動的な不可思議な終求こそ问題とされる べきものではないかと思うのです。

質問にたいして回答している個所を掲げます。 ところで、右のルーシーの手紙のなかに遊屋の、合りに関する一部がを対すする。これは今年二月に発生する天文上の珍らしい現象で、海外のありますが、アダムスキ側に断固をが発生するという説がかなり流れておりざすが、アダムスキ側に断固をが発生するという説がかなり流れておりざすが、アダムスキ側に断する一部がところで、右のルーシーの手紙のなかに遊屋の、合りに関する一部が

向 一九六三年二月に遊屋群が。合《になるとき起ると云われている

は一定の時日に物事が起るとは予言しませんし、何かを行なおとして信じ難いものです。これらの深泉のなかには宇宙機の大くは一定の時日に物事が起るとは予言しません。真実の宇宙人は一定の時日に物事が起るとは予言しませんと、真実の宇宙人は一定の時日に物事が起るとは予言しませんと、真実の中国機の大

― リ連天文学者の馨くでき告白―

この物語は一丸スー年並月二十一日にロンドンのッサンデー・タイムに報意されたのであったというのである。計算によるとこのロケットは金銭がり連り会員にたというのである。計算によるとこのロケットは金銭がら大万マイル以内を通過していた。これは昨年三日十二日に打上かられたが、三日二日にモスコウは、主発信様がたぶん流差と激突したために報意されたが、三日二日にモスコウは、主発信様がたぶん流差と激突したために報意されたが、三日二日にモスコウは、主発信様がたぶん流差と激突したために超電連鎖が下絶えたのだろうと巻表した。そこで前記のジョドレル・めに無電連鎖が下絶えたのだろうと巻表した。そこで前記のジョドレル・めに無電連鎖が下絶えたのだろうと巻表した。そこで前記のジョドレル・はに報達されたのである。

この声明の出これた当時、ジョドレル・バンクの科学者はその信号が近しい方向から正しい用収数で来たと確信していることを定れてはなら近い。変信状態、受験で、信号は確認されなかったが、ジョドレル・バンクはその音響は全鬼の付近から来のつあったと感じたに方がいない。というのは、一番を対しているが、ジョドレル・バンクの対学者はその信号がとからである。

ソ連も感じた

がいない。そのろんのは気道は信号がどこからまたのかを決めることは、ソ連がこのデープ鉄音を続いたとき、彼らも同様な印象を受けたにち

どうかというジョドレル・バンクからの招待に応じることに決めたのでどうかというジョドレル・バンクからの招待に応じることに決めたのでできなかったけれども、彼らはその、通信、が非常変信機に使用されるできなかったけれども、彼らはその、通信、が非常変信機に使用されるできなかったけれども、彼らはその、通信、が非常変信機に使用される

大月十六日にロンドンの、タイムズの紙はこの調査の結果について詳れな記事を掲載した。「宇宙探知線の女流道導者アルラ・マセヴィッナ組な記事を掲載した。「宇宙探知線の女流道導者アルラ・マセヴィッナを放大、金屋探検計画の権威水ダレフ博士の三専門家は、ロケットは進数技ど、金屋探検計画の権威水ダレフ博士の三専門家は、ロケットは進数技ど、金屋探検計画の権威水ダレフ博士の三専門家は、ロケットは進数技ど、金屋探検計画の権威水ダレフ博士の三専門家は、ロケットと連絡をおようとしていたり連の科学者に協力したのである。

めて重えれ発表が行なわれた。
めて重えれ発表が行なわれた。
記者会見の席上、次のようなぎわ、
使にダイムズ紙の記事は、ロケットが追踪をそれた理由についてマセ

すかわちロケット内の発信機は近日おきに九十分周信号を送るようにセットされていたとマセウィッチ教授は説明した。この信号というのは七ットされていたとマセウィッチ教授は説明した。この信号というのは上で得らによく似ているが、それは地上で発射されたものであることがかかった。たぶんその地域のアマチュア釈釈範の出した電波で、望遠鏡が地工線に向って一杯の角度に傾けられたときにその信号がキャッチでが地工線に向って一杯の角度に傾けられたときにその信号がキャッチでが地工線に向って一杯の角度に傾けられたときにその信号がちゃっチでが地工線に向って一杯の角度に傾けられたときにその信号がちゃっとがかれたものだろう。ところがマセヴィッチは金星自体から無線信号が変射れたものだろう。ところがマセヴィッチは金星自体から無線信号が変射れたものだろう。ところがマセヴィッチは金星自体から無線信号が変射れたものだろう。ところがマセヴィッチは金星自体から無線信号が変射れたものだろう。ところがマセヴィッチは金星自体から無線信号が変射れたものだろう。ところがマセヴィッチは一般にはいるというによりにあるというないでは、

タイムが紙のこの記事を読んだあと、フライイング・リーサー・レウ

英科学者連が必答いたり理由を説明していると云ってよいだろう。 らないという懸念は、マセウィッチ教授があの知的な通信は少金豊から 感信されたのかもしれないへという可能性をかくも無難作に考えたとき た異な強調されなばからひりからである。安張の田盤に結びつけてはな 異端視された四盤回題に関してすべてを避けることに最大の注意を払っ ぶん三つのうちで最も意味が長なものであった。なせなり編集長はこの する必要があると述べた。彼が躊躇した理由は、彼らか宝器不用強と結 海外学長は、自分で云う前に天文白長のパーナード・ラヴェル卿に相談 びつけられるのな望まなかったりことにあった。この三番目の回答はた た。乾科学道連もこの可能性を認めたかどうかという別な質向に答えて 統して彼は、マセウィッチ教授の声明に英科学者連はないたとつけ加え その考え方には非難の余地はありませんしと沙外径長は答えたのである。 は同意しますかつに回答が述べられる前に意味深長な沈黙が続いた。「 かえしれないという可能性をマセウィッケ教授が認めているっきあなた 次のような回答を得た。ハヨりあの信号が人工的なそのであることは疑 を意味する。 三番目の質問は借くべき回答を得た。編集者は尋ねた。 らというのではなく、マンチェスター方面の或る発信源からということ ッレヴュール語の者だとは云わなかった。編集長が発した最初の質問は 歩外体長がパーナード・ラヴェルゆと相談した後(たぶん次に云うべ は、あれば金屋から発せられた知的なメッセージであることを意味する 「あの信号が、人工的のなものであることは確かだとおっしゃるからに を意味するものであることを確かめたへずわわち、この地球のどこかか く愛向は、小地上へという言葉はジョドレル・パンク地域とは別な地方 いないというのである(すなわち自然の家因によるものではなり)。統 ユーク説の編集長はジョドレル・ハンクの海外係長へ電話をかけたか、

き事柄について)、彼は編集長の、誤ちのなり考え方。について先に言及したことから逃れようとした。彼らは信号が、地上の発信がであったという実にこれ以上確信はなかったのである。信号は必ずしもマンチェスターの近辺からではなく、実際にどこかから来たのかもしれない。それは今や、正体不明のが態にはってしまった。マセヴィッチ教授の云った言葉は何を意味しようとしたのかと尋ねてみると、教授の言葉はである。そして停長が多くの辻褄の合わない話を続けた。結局編集長はあある。そして停長があるとの辻褄の合わない話を続けた。結局編集長はあの通信が実際に大気圏外から末たのかと尋ねてみると、教授の言葉はである。そして停長が多くの辻褄の合わない話を続けた。結局編集長はあの通信が実際に大気圏外から末たのか、それともコールトン・カム・ハーディーから来るのか疑惑に包まれてしまった。その上、疑惑はひおも信号がくていてはないだあるという実にも投げられたのである。ひたすからなどのないますのではないだろうか。

写の様本人であるとするなら、マセヴィック教授はモスコウからの盛け とつきとめることができたであろう。 (通信が成ったと思われた信号を聴くためにモスコウからの強いととわれれれば異して信じてよいものだろうか。もし地上的なものだったとわれれれれば異して信じてよいものだろうか。もし地上的なものだったとわれれれれば、その希信先はジョドレル・バンクの如き装置よりももっとか型の横載で探知できたであろう。 (通信者ならは数時間でその発信者を聴くためにモスコウから適々放したのである。そとわれれれば果して信じてよいものだろうか。もし地上的なものだったとわれれれば果して信じてよいものだろうか。もし地上的なものだったとわれれれば果して信じてよいものだろうか。もし地上的なものだったとわれれれば果して信じてよいものだろうか。もし地上的なものだったとわれれれば果して信じてよいものだろうか。もしからの強いない。 なっまとめることができたであろう)もしアマチュア無線気がその信をつきとめることができたであろう。 (通信者ならば数時間でその発信者とのだったとのの一つである。そればいたの者信もはジョドレル・バンクの如き装置よりももっとかできたであろう)

は置って、歓迎すべき変りようである。 は置って、歓迎すべき変りようである。この冗談は英国で来る大抵のい連の役人のいつもの監督してと さ旅が実際に必要なものであったかどうかを考えたであるう。しかし彼き旅が実際に必要なものであったかどうかを考えたであるう。しかし彼

ところでジョドレル・バンクの博学者選の態度である。彼らは円盤となってもらいというのではない。ただ彼らがすべてを知っていないとうってもらいというのではない。ただ彼らがすべてを知っていないというのではない。ただ彼らがすべてを知っていないということを認めてえずればよいのだ。そうずれば、それな物は存在しないのだといったありをするかわりに、人間は神秘を解明することができるのだといったありをするかわりに、人間は神秘を解明することができるのだといったありをするかわりに、人間は神秘を解明することができるのだといったありをするかわりに、人間は神秘を解明することができるのだろう。(フライイング・ソーサー・レヴェー誌一九大二年九・十月号とう)。(フライイング・ソーサー・レヴェー誌一九大二年九・十月号と

以上の記事の有受はきわめてまわりくどい書き方がしてありますが、といっているようですが、内容は治ど次、よりではない。 はいかりのことを認めようとしないのはなぜが、といった内容です。 その他の多くの情報によりますとジョドレル・バンクの。博学者から自じたにもかかわして、おりでは一般に持っているようですが、内容は治ど次、よいった内容です。 その他の多くの情報によりますとジョドレル・バンクは多数の驚異的な体のを持っているようですが、内容は治ど次や、れてはいないと言えた方は言えた方にであっているようですが、内容は治ど次や、といった内容です。 その他の多くの情報によりますとジョドレル・バンクは多数の驚異的な体のの多くの情報によりますとジョドレル・バンクは多数の驚異的な体のであってすが、内容は治ど次や、といった内容ですが、内容は治が近れてはいないと言うに、ショドレル・バンクので記載を表示しておりますが、といったの記事の有受けますが、内容は治とといいますが、というによりでは、からいというによりないというによりますが、内容は治が、というによりではいる。

金 雜 報 一

○ 仕事は終った―――アダムマキは講演家としての仕事を終えた。彼は一九六一年な月が日にサンフランシスコのダニエル・フライの主宰する。アンダスタンディングの本部で、宇宙哲学について語ったのが彼の公開講演の最後である。このことはルーシー・マクギニスが我々に知らせた言葉「アダムスキは広範囲に、現役、のリストから選さましたが、これは個人的な指導や着作に妻だするためです」を裏書するか否がは我々次才であるということになる。(英四些領党説・オービット・一九六一年ハ・九・十月合併考より)

① 和玉杯はなかったトーー 真相は結局違かれる・ウィリアムスン博士がグラストンベリーの壁呑対アを発掘するという教等が流れてから教が月になる。ウィリアムスン氏はその地で発掘を訪みたけれども、この名高り土地の探索で被を熱中させるような物は何もなかった事実が判明している。ついでながら、この壁存せどと歌味をおもちのかたは、W・テューダー・ポールの一連の著書、特に少沈黙の道路がからおは、W・テューダー・ポールの一連の著書、特に少沈黙の道路がからおは、Bactoackをあるすめする。(右に全し)(註。グラストンベリー・は英国南西部サマセット州の古都で人口五子、アリマテヤのヨセフがイエスの要求を携えて来たという信説の地です)

○スイスのサイレンス・グループーー「私国

者ルウ・ツィンシュタークマ史からの十二月二十八日付私信)
は、私宛に電話をかけてくる人に写真を見せたり話をして間がせたりして個人的に啓蒙活動を行なっています。というわけは、大抵の人は私をは、私宛に電話をかけてくる人に写真を見せたり話をして間がせたりしば、私宛に電話をかけてくる人に写真を見せたり話をして間がせたりして個人的に啓蒙活動を行なっています。というわけは、大抵の人は私をは、私宛に電話をかけてくる人に写真を見せたり話をして間がせたりして、八人の野部にまいっている女人とみているからです」(スイスの協力を指わり・ツィンシュタークマ史からの十二月二十八日付礼信)

レズリー(フライイング・ソーサー・レウュー誌一九六一年九・十月号 ルリフの云う〇〇々の母い層のことを云っていたのだと思う さ私はこれは少々変な話だと思ったが、回想すると、アダムスキはフィ 長命の象因の一つだとアダムスキは語ってりた。幸適に云うと、そのと また、金屋の一日は地球のそれよりも少し短かくて、一般の気温は少々 気球で実際に成功した)、もっと目んとうの状態がわかり、大気の状態 大気圏外へ観測装置を運ぶことに成功したならば一これは米国の成層圏 についても話してくれた。私の記憶が正しいとすれば、これが金星人の 地球よりも暑りが、地球ほどに緊暖の差は激しくなりとも語ったという。 において二つの適量が如何によく似ているかを知って驚くたろうという。 ダムスキが松に与えてくれた知識につけて注意すべき確配がある。その を地球人がつきとめることができなかったのは、ただ観測法が十分でな いからだと語った。彼が会った宇宙人たちの話によると、地球人がもし ときであるスキは、地球の大気に非常によく似た金星の呼吸できる大気 ○ 公立星とアグムスキー―金星の大気に関する天文学者 フィルリフの記事のなかに、一九五四年に私が訪問した際ショージ・ア 要するに、フィルリフの記書は驚くべき確証である。――デスモンド またアダムスキは、有智力放射線を防ぐ、大気上層の或る保護的な層

より)(註。フィルソフの記事というのは、フライイング・ソーサー・レヴュー試一九大一年七・八月号に掲載された記事が生命の住居としての金屋、を表述します。それによりますと、一九五九年十一月に米海軍とジョンズ・ホルスペクトル写真が帰回で金屋研究用の成層圏気球を打上げたとごう、赤外スペクトル写真が帰回で金屋研究用の成層圏気球を打上げたとごう、赤外スペクトル写真が帰回で金屋研究用の成層圏気球を打上げたとごう、赤外スペクトル写真が帰回で金屋研究用の成層圏気球を打上げたとごとを確認し、それによって水の存在が確認されたことや、オハイオ州立大学のフ・クラウス博士が圏波観測により全星の目転周期を三十十州立大学のフ・クラウス博士が圏波観測により全星の目転周期を三十十州立大学のフ・クラウス博士が圏波観測により全星の目転周期を三十十が立大学のフ・クラウス博士が圏波観測により全星の目転周期を三十十分にあって登録というのは、フライイング・ソーサー・とかって書いてででは、またスペクトルで酸素が存出することを確認し、それによって水の存在が確認されたことや、オハイオが立て書かずると、現在のは、対域により、またスペクトルで酸素が存出することを表が、対域により、またスペクトルで酸素が存出することを表があるように見える。

の紳士が前へ出す。一日、A・N・スティーヴンスン(能勢・静・少の対え見くっている。――G・A・N・スティーヴンスン(能勢・静・少人会合が終ったとき、別なから話しかけられたので、この男の姿をそれ以ま見くっている。そこで彼は、始めの紳士は)――どうも娘をちの友人が家族の者だろう――娘たちをロンドンへ連れて行った。そして彼は、無数の数字を記憶する競技でこの娘を買かす者がいれば一手ポンドを出すという。彼はどする競技でこの娘を買かす者がいれば一手ポンドを出すという。彼はどする競技でこの娘を買かす者がいれば一手ポンドを出すという。彼はどする競技でこの娘を買かす者がいれば一手ポンドを出すという。彼はどする競技でこの娘を買かす者がいれば一手ポンドを出すという。彼はどする意技でこの娘を買かす者がいれば一手ポンドを出すという。彼はどれ以ま見くっている。――G・A・N・スティーヴンスン(能勢・静・少し会合が終ったとき、別な人から話しかけられたので、この男の姿をそれ以ま見くっている。――G・A・N・スティーヴンスン(能勢・静・少しな合が終ったとき、一人の金髪の男にはないました。とかしまりませんが、この男の姿をそれ以ま見くっている。――G・A・N・スティーヴンスン(能勢・静・少しなど)というないが、この男の姿をそれ以ま見くいとのないが、この男の姿をそれ以まりましている。

の発行が遅れて由歌ありません。今号はタイプ印刷にするつもりでした 礼を由し上げます。このところ多にをきわめておりましたため、才四号 その臭を御経承下でい。 て一度が一度タイプ印刷にしてもあとか続かねは意味をなしませんので、 が、どうも印刷費が総出できず、子だかり版にしました。無理押しをし ◎ 先ず、各方面から寄せられました絶大な御支援と激励の時になる御

鳴りという問題が個人の思考力の飛躍的上昇をはばむ最大の気色である 完全中立、全く自由な自私の状態にまで自己を高めることの重要性を説 を自ら見につけてきぶの同一化の態度は酸りだとするクリ とか、ABCメンバー、だの、成長の家信徒、といった一家一派の烙印 ら注文していた少字面哲学が二月末か三月上旬に到着すると見います シュナムルライーの言葉に私は深く考えてせられるのです。わはり、失 いています。ゆえに、ックリシュナムルディー減りとかっアダムス主流 るものと私はみているう。思想的にはアダムスキとよく似てわり、他人 ⑤ 翻訳したり本はまだ他にもあるのですが、時向的余裕がなくてどう 哲学のと競して活字にしたいというのが目下私の最大の念頼の一つです。 の哲学の境直しではなりようです。要するに、他の思想に捉われないで は松かこれるでに読んだ方巻の水道の書のなかで先ずトップクラスに入 tary on Living (生きるための助言)を読んでいるすが、これ れは翻転党ア次才にり指被感元りに加えて合本とし、り精神感心と宇宙 ◎ 今回でアダムスキの、試別、の内容の紹介は経りますが、かねてか にもなりません。現在は眼をみてクリシュナムルディーの〇〇のあれただし ので、次写からはおどらくこの全訳を遺載できると思います。なお、こ

としか思えません。

奥は深く見るものです。 タクトマンの真温性を躍起になってせんさくしたり攻撃したりする必要 事で、人類にたけるる番性であると確信しているのなら、何も他のコン は全くない宝のものを、感情的にそうなるような或る実例を科は非常に ことと思われます。一コンタクトマンが真実自己の体験が固置いのかり の国はいりというよりもむしろ本人自身の悪魔的な社を影響するだけの 物をさておいて、他人を非難な響することの野著ったけ、イヤいしさは 食っているだけだ」というアダムスキの哲学はどう考えても真実をうが ◎「どこにも悪魔などいはしない。 それはただ自分の心のなかに気 つものだろうとしか私には思えれいのです。その心にんという巨大な怪

流れているのを私は感じています。やはり光空というものを持つべきで であり、個人的な就教には一切意味をねしません。つまり彼らが体験 星の人類が地球人を指導するとすればおどらく全く問線の状態にあるて しょうかり ようとするカッか欠けているくらいに不幸なものはないということです。 しょう。しかしこの非行父母たちにも何かしら真実なるものがその底を によって住民するのをり待ついより他に方法はないのです。進化した遊 そして指導する側にとって必要なそのは全く、窓耐りの一語に尽きるの きすが、この集団生活で型が過胞することは、人間にとって心自ら考え ○ 私は職業上、知能の公山特殊な少年たちを指導する仕事をかってい

G.A.P JAPAZ =- XV9- N.A 発 行 所 島根県益田市益田西川、五九三 編集発行人久保田 八 昭和三十七年二月十日発行 日本G·A·P